

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科目名	キャリアガイダンス(688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	石黒 誠				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教室	151 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教科書 教材	仕事力を身に付ける 20 のステップ					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1～3回 就活とコミュニケーションのつながりを理解する</p> <p>4～6回 意見をつくる力</p> <p>7～9回 聞く力・話す力</p> <p>10～12回 自己理解</p> <p>13～16回 仕事理解</p> <p>【後期】</p> <p>1～3回 自己PR作成</p> <p>4～6回 トークセッション</p> <p>7～9回 就活成功3ヶ条</p> <p>10～12回 選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験）</p> <p>13～15回 面接（個人・グループディスカッション）</p> <p>16回 まとめ</p> <p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード	11	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科目名	映像特論(980)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	伊藤 有哉				実務経験内容	
					[伊藤]ブライダル関係の動画制作を行っており、その業務の一環として、画像・映像の編集を行っている。これらの知識を活かして指導を行う。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
前期はカラーグレーディングについての知識、後期は動画制作における知識について学ぶ。						
授業形態	講義	教室	151 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時にプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義を行い、参考映像を視聴することもある。						
教科書 教材	なし					

授業計画・内容

【前期】	
1～2回	授業進行説明、映像特論ディスカッション
3～4回	カラーグレーディングの基礎
5～6回	カラーグレーディングの概念
7～8回	カラーグレーディングの歴史
9～10回	カラーグレーディングの技法
11～12回	カラーグレーディングの応用
13～14回	前期授業まとめ
15～16回	前期テスト対策
【後期】	
1～2回	動画制作の基礎
3～4回	動画制作の歴史
5～6回	動画制作の構成
7～8回	動画制作の撮影
9～10回	動画制作の編集
11～12回	動画制作の応用
13～14回	後期授業まとめ
15～16回	後期テスト対策
<p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科目名	演出表現(981)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	川崎 慎也				実務経験内容	
					[川崎]放送業界で制作を経験してきた。この制作で培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
演出を効果的にするための、音響や照明、映像などの要素技術を、統合的に表現する技術について学ぶ						
授業形態	講義	教室	151 教室	補助教員	なし	
プロジェクトで映像を見せながら、学生たちに自ら気づいた演出技法をまとめさせる。見終わったあとに全員と共有しながら、演出技法を解説する。						
教科書教材	なし					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～2回 古典映画から学ぶ演出技法① 3～4回 古典映画から学ぶ演出技法② 5～6回 古典映画から学ぶ演出技法③ 7～8回 古典映画から学ぶ演出技法④ 9～10回 現代映画から学ぶ演出技法① 11～12回 現代映画から学ぶ演出技法② 13～14回 現代映画から学ぶ演出技法③ 15～16回 現代映画から学ぶ演出技法④</p> <p>【後期】 1～2回 ドキュメンタリー番組から学ぶ演出技法① 3～4回 ドキュメンタリー番組から学ぶ演出技法② 5～6回 バラエティ番組から学ぶ演出技法① 7～8回 バラエティ番組から学ぶ演出技法② 9～10回 報道番組から学ぶ演出技法① 11～12回 報道番組から学ぶ演出技法② 13～14回 まとめ① 15～16回 まとめ②</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	
評価コード	3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ol style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を越えた場合は、60 点を越えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を越えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	--

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1年

科目名	照明表現(982)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像を効果的に表現するための、照明機器の取り扱いを始めとして、具体的な照明手法について学ぶ。						
授業形態	講義	教室	151 教室	補助教員	なし	
毎授業の最初に、前回の復習を行い理解を深める。板書を中心に行い、ノートに書かせる。機器の写真をスクリーンで見せながら講義していくこともある。前後期末にノートを集めて、確認する。						
教科書 教材	舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1～2回 舞台照明 1 3～4回 舞台照明 2 5～6回 舞台照明 3 7～8回 舞台照明 4 9～10回 テレビ照明 1 11～12回 テレビ照明 2 13～14回 テレビ照明 3 15～16回 テレビ照明 4</p> <p>【後期】</p> <p>1～2回 仕込み図の読み方 1 3～4回 仕込み図の読み方 2 5～6回 仕込み図の書き方 1 7～8回 仕込み図の書き方 2 9～10回 仕込み図の書き方 3 11～12回 実際の仕込み 1 13～14回 実際の仕込み 2 15～16回 実際の仕込み 3</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>
--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科目名	映像音楽表現(983)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部 進				実務経験内容	
					[曾我部]音響業界で得た経験を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
イベント・映像制作における音楽的演出を紹介し、学生自身の音楽経験を確認させながら、様々な音楽の種類や歴史、音楽理論についての基礎知識を習得させる。さらに効果音作成や音楽編集などの映像制作に関わる音声収録、MAなどの制作技術を学ぶ。また、即戦力となるために音楽用語、制作に必要な機材の用途・種類（名称や型番）、内部の構造、その他付属機器の知識を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	151 教室	補助教員	なし	
紹介したい音楽をスピーカーから再生しながら、学生から発言させたり解説していく。課題をプリントで提供し、その都度回収し、平常点に加味する。基礎知識や論ずる問題は、定期試験のテスト点で評価する。						
教科書 教材	プロ音響データブック<五訂版> 日本音響家協会（毎授業で使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1～2回 科目のガイダンス（音楽の3要素、3方面の説明）</p> <p>3～4回 音楽を使用した仕事</p> <p>5～6回 音楽の性質（メロディー、ハーモニー、リズム、構成など）</p> <p>7～8回 音楽のジャンル</p> <p>9～10回 楽器の種類</p> <p>11～12回 映像制作に必要な音楽理論</p> <p>13～14回 音響編集の基礎</p> <p>15～16回 音響編集の応用</p> <p>【後期】</p> <p>1～2回 映像表現に必要な音楽の扱い</p> <p>3～4回 音楽制作に必要な映像の扱い</p> <p>5～6回 音響制作の基礎</p> <p>7～8回 映像制作の音響プロダクト（素材編）</p> <p>9～10回 映像制作の音響プロダクト（ナレ撮り編）</p> <p>11～12回 映像制作の音響プロダクト（アフレコ編）</p> <p>13～16回 映像制作の音響プロダクト（エフェクト編）</p> <p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
評価コード	3					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	--

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1年

科目名	演技発声表現トレーニング(984)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
演技力や表現力の基本について学ぶ。発声全般について、喉・舌などの使い方に始まり、発音の訓練なども含まれる。さらに、アナウンストレーニングにおいては、通る声の発生方法についても学ぶ。						
授業形態	演習	教室	151 教室	補助教員	なし	
基本的に発声を行う。滑舌練習を最初に行い、台本やアナウンス原稿を読みトレーニングを行う。						
教科書教材	NHK 日本語発音アクセント新辞典 NHK 放送文化研究所（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～2回 NHK アナウンス辞典の活用方法 3～4回 滑舌練習（資料1） 5～6回 滑舌練習（資料2） 7～8回 滑舌練習（資料3） 9～10回 滑舌練習（資料4） 11～12回 指示指導1 13～14回 指示指導2 15～16回 指示指導3</p> <p>【後期】 1～2回 アナウンス練習1 3～4回 アナウンス練習2 5～6回 アナウンス練習3 7～8回 アナウンス練習4 9～10回 音声録音指導1 11～12回 音声録音指導2 13～14回 音声録音指導3 15～16回 発表</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	
--	--

評価コード	11
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1年

科目名	カメラテクニック実習(985)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	富田 正樹				実務経験内容	
					[富田]映像業界で制作技術を経験してきた。業界で培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
スチール・映像双方のカメラの使用について、機器の取り扱いから、効果的な撮影方法まで学ぶ。						
授業形態	実習	教室	151 教室	補助教員	なし	
カメラシステムを作成し、カメラワークの手法やレベルに応じたカメラテクニックを実践する。						
教科書 教材	なし					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～8回 カメラの撮影練習1（ズーム・フォーカス） 9～16回 カメラの撮影練習2（式典などの撮影練習） 17～24回 カメラの撮影練習3（合唱などの撮影練習） 25～32回 カメラの撮影練習4（芝居などの撮影練習）</p> <p>【後期】 1～8回 スイッチャーの機能とスイッチの切り方 9～17回 3台のカメラを用いた中継テクニック 18～23回 4台のカメラを用いた中継テクニック 24～32回 5台のカメラを用いた中継テクニック</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード	13	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。 	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科目名	エディットテクニック実習(986)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	伊藤 有哉				実務経験内容	
					[伊藤]ブライダル編集業務に携わってきた経験を活かし、編集のノウハウを実践的に教育する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像編集に関する技術について、効果的に見せる技法を学ぶ。						
授業形態	実習	教室	151 教室	補助教員	なし	
ノートパソコンを使用し、ジャンルに合わせた編集のテクニックを基本から応用まで磨いていく。						
教科書教材	著作権フリーの動画データやオリジナルデータを使用					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～4回 前期授業進行説明、パソコン基本操作解説、映像編集理論解説 5～8回 Photoshop、Illustrator の基本操作解説 9～12回 Premiere Pro、After Effects の基本操作解説 13～16回 Premiere Pro のカット編集 17～20回 Adobe ソフトを連携した編集 21～24回 前期まとめ 25～28回 前期課題テスト映像作品作成 29～32回 前期課題テスト映像作品提出、発表</p> <p>【後期】 1～4回 後期授業進行説明、前期授業の復習 5～8回 色加工を使用した Premiere Pro の編集 9～12回 オリジナルデータを使用した Premiere Pro の編集 13～16回 オリジナルデータを使用した After Effects の編集 17～20回 オリジナルデータを使用した Adobe ソフトを連携させた編集 21～24回 後期まとめ 25～28回 後期課題テスト映像作品作成 29～32回 後期課題テスト映像作品提出、発表</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
評価コード	13					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科目名	制作研究(488)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	富田 正樹・石黒 誠				実務経験内容	
					[富田]映像業界で制作技術を経験してきた。業界で培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	8	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
MV や PV、プロモーション映像などの映像全般の作品制作を年間を通じて実施する。						
授業形態	実習	教室	151 教室	補助教員	なし	
企業などの紹介ビデオの制作を企画から制作まで行う。コンテスト作品の制作にも参加し、作品作りの実践を行う。						
教科書 教材	なし					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～25 回 企画 1 作品制作 (企画～作品提出) 26～50 回 企画 2 作品制作 (企画～作品提出) 51～78 回 企画 3 作品制作 (企画～作品提出) 79～80 回 作品発表</p> <p>【後期】 1～25 回 企画 4 作品制作 (企画～作品提出) 26～50 回 企画 5 作品制作 (企画～作品提出) 51～78 回 企画 6 作品制作 (企画～作品提出) 79～80 回 作品発表</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

評価コード	13	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況) を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。 	